

4度目の出品となる本校は、これまでの取組みを継続しながらも、より快適な飼育環境を追求するとともに地域資源を活用した飼料給与に挑戦したいと考えた。行動調査をもとに人工芝ブラシを設置するとともに音楽を聞かせた。気温・湿度・体温・尿中コルチゾールの測定を行い、ストレス状態が変化する様子を分析した。その結果、気温・湿度・体温に大きな変化のない期間はコルチゾールが低下したことから、環境改善につながったと考える。また、飼料用焼酎濃縮液を給与し、発育や消化状況、健康状態を調査した。発育は良好で、アシドーシスの症状も見られなかった。生化学検査により肝機能の低下が明らかになったため治療を行ったが、現在は回復している。肥育牛のと畜・解体を見学したり精肉の販売会を実施したりするなど、地域の方々から多くの協力をいただきながら学習を進めている。